

5650-0001 グリップリムーバーガン 取扱説明書



グリップを抜くために、グリップとシャフトの隙間に溶剤を送り込むためのポンプ式注射器。ホース先端の針をグリップに差し込み、溶剤を送り込むことで、両面テープのノリを溶かしてくれ、抜きやすく、グリップの再利用（リグリップ）がスムーズに行える工具。

※ご使用前にはホース先端を指でつまみながら、ポンプレバーを操作して、ホース先端まで溶液を送ってから作業してください。（圧力を高めるため）

※ベンジン・ホワイトガソリン以外の溶剤を使用すると、詰まる可能性が高く、故障の原因になりますので使用しないでください。

（ライト グリップ交換溶液 #LG399 など使用できません。）

関連商品

【消耗品】 グリップリムーバーガン用交換針（5 個入）（5650-0003） グリップリムーバーガン用 高強度交換針（1 個入）（5650-0006）

【交換部品】 グリップリムーバーガン用 交換ホース（1 本）（5650-0002） グリップリムーバーガン用ポンプ（予備用）（5650-0004）

※注意※ 関連商品は本製品以外とは互換性がないので、他製品には取り付けて使用しないでください。

交換針は、ポンプ部分に直接取り付けての使用は危険ですので、絶対におやめください。

必ずホースの先端に取り付けて使用してください。

ご使用前に

本品は出荷前に正しく機能するか、チェックを致しておりますが、万が一に備え、ご使用前に以下の作業を行って下さい。

チェック1



ポンプを数回押して空気が出ているか、チェックをして下さい（左図参照）。次に、本体からホースを取り外した状態で溶剤が噴射できるか確認します。通常、初期段階では溶剤を吸い上げるのに 50 回ほどレバーを引く必要があります。噴射口を塞ぎ溶剤を吸い上げやすくすると、レバーを引く回数をやや減らせます。50 回以上の吸い上げで溶剤が噴射されない場合は、下記のチェック 2 の作業を行って下さい。

チェック2



ポンプを本体から外し、ポンプに付帯するストロー部末端の真鍮部を数回叩く。



ポンプ上部の真鍮ボルト部を数回叩く。



ポンプ本体へ戻し、溶剤が噴射できるか再度確認。50 回以上の吸い上げで、溶剤が噴射されない場合は、更に次頁のチェック 3 の作業を行って下さい。

次頁 チェック 3 作業手順



チェック3



ポンプを本体から外す。
ポンプに付帯するストロー部末端の真鍮部品を外す。
ポンプ上部の真鍮ボルト部を外す。
真鍮部の締め付けが固い場合、レンチなどが必要です。
※注意※
真鍮部内部には小さな鉄球とバネが各1個ずつ装填されています。小さい部品ですので、紛失には十分注意して下さい。
取り外した鉄球とバネが固着していないことを確認し、元に戻します。
固着していた場合は丁寧にふきあげて下さい。



ストロー部末端の真鍮へは、鉄球を先に戻し、最後にバネを戻し、元通りに真鍮部品を取り付けます。



ポンプ上部の真鍮ボルトへは、バネを先に装填し、鉄球を最後に戻し、元通りに真鍮ボルトを取り付けます。
ポンプ本体へ戻し、溶剤が噴射出来るか再々度確認。
50回以上の吸い上げで、溶剤が噴射されない場合は、更に下記のチェック4の作業を行って下さい。

チェック4



ポンプ上部の真鍮ボルト部を外し、溶剤を鉄球が浸るまで注ぐ。

真鍮ボルトをもどし、10回程程度の吸い上げで溶剤が噴射されない場合はお手数ですが、弊社までご連絡下さい。

ご使用方法

別の包装に入った注射針を取り付け、容器の中にベンジン又はホワイトガソリンを入れ、既にシャフトに装着されているグリップ（但し、劣化した古いグリップには不向きです）に注射針を差し込み、ポンプの圧力を利用して溶液をグリップとシャフトの間に注入し、引き抜きます。

※注射針は、折れや曲がりに対応し、針の長さが短いものを採用しています。安全性を高めるため、針根元の締結部に一定以上の力が加わると、破断するように作られています。作業の際は、針を刺す方向以外の力を加えないよう、ご注意下さい。

※ベンジン・ホワイトガソリン以外の溶剤を使用すると、詰まる可能性が高く、故障の原因になりますので使用しないで下さい。

ご使用手順

1. クラブを動かないように万力等に固定し、折れや曲がり注意しながら、注射針をグリップに差し込みます。
2. ポンプの圧力で溶液をグリップとシャフトの間に注入し、グリップを緩めながら、一気に引き抜きます。
3. 引き抜いたグリップの内部に両面テープが付着してしまった場合は、グリップクリーナー等（商品番号：5688-0101）できれいにしてから再利用して下さい。

【注意事項】注射針は人体に刺さると大変危険ですので、作業する際は充分ご注意下さい。また、使用なさらない時は、注射針を外した状態でお子様の手の届かないところに保管するようにして下さい。